



コロナ禍 3 回目の緊急事態宣言

仲嶺 真弓

コロナ感染症変異株の出現で、医療も逼迫し、3 回目の緊急事態宣言が発令されました。思い起こせば 1 年前も味わったこの感覚。1 年が経つのにあまり好転しているように感じないこの国の状況に、私たちも慣れっこになってきていないだろうか…という気持ちも否めません。今一度、保育園は集団生活の場であることを忘れずに、発熱はもちろんのこと、咳が出だしたなど、いつもと少し違う体調かもと思った時点で大事をとってもらいたいというのが切実な気持ちです。

昨年度はコロナについてわからないことが多すぎて、懇談会をはじめ、園行事を中止の判断が多かったことに、このままでいいのか…と自問自答した日々でもありました。3 月～4 月の懇談会で、参加した保護者の言葉は、その自問自答した思いを確実なものに変えてくれました。集まることができなくても、中止ではなく何かできることを考えよう。もっと子どもたちのことや園のことを職員のことを知ってほしい。孤立しやすいコロナ禍の今だからこそ、子育てについてのあれこれを語れる機会をやっぱり大事にしたいと実感した 4 月の始まりでした。2021 年度は、職員一同、どんなことができるのか更に考えます。保護者目線でこんなことどう？などあれば一報いただければと思います。できること、できないことがあるとは思いますが、楽しいことを模索しながら実現していくそんな一年にしていきたいです。

人知れず応援して下さる方へ感謝

2021 年度の 4 月は、静かな始まりでした。保育園の園周りの斜面花壇には、色とりどりの個性豊かな花が今年も咲きました。この花は、つばさが丘北地区に住む近隣の方が、家で楽しむガーデニングで余った花だから…とボランティアで植えて下さっています。そのときにしかできないからと同時に草むしりもして下さり、職員が声をかけると、「好きでしていることだから、お気遣いなく」とかえって恐縮されます。そして保育園にあまり人がいないときにお花の手入れをして下さることが多くなったので、保護者が気づく機会は少ないと思います。

子どもたちの食育に繋がる野菜作り…畑に関しては、毎年秋に、子どもたちが芋掘りを楽しめるようにと、昨年まで畑の一面を貸して下さっていたのは、地域在住の中尾さんでした。保育園からは少し距離があり、子どもたちはへとへとになりながらも芋掘りを楽しませてもらっていました。その様子を知って、保育園の近くに畑があればなあとローソン前の更地を畑にして貸して下さったのは、日々の給食でお米を提供して下さる大屋さんです。お二人とも、畑の土地を貸して下さるだけでなく、畑の畝の作り方や、野菜の苗の植え方、育て方まで、職員に伝授して下さい、「何かわからないことがあれば、いつでも聞いてや」と心強いお言葉まで頂きました。(実はもう一人事務員一森のお父さんにも畝づくりから力を借りています) こうやって、人知れず子どもたちのために、力を貸していただけていることに頭が下がります。夏～秋にかけて、子どもたちが目いっぱい野菜の収穫が楽しめるよう、職員も奮闘。子どもたちと一緒に水やりをしながら、野菜の成長も楽しみ、食育につなげたいと思います。

世間一般では子どもの声も騒音と捉えられ、保育園問題の 1 つとして話題にあがることもあるのですが、つばさの近隣住民の方からはそういう声は聞かれず、「子どもの声は保育園なのだから何とも思っていないですよ。」といつも暖かい声をかけていただき、見守って下さっている方が多いです。そのあたたかい眼差しに感謝しながら、大人の私たちは、近隣の方が不快に感じるようなことはしていないだろうか…? と日々振り返る毎日です。職員の声は大きくなっていないだろうか…? 保護者の交通マナーなどはどうだろうか…? これから暑くなる季節、少しの時間だからと駐車場でアイドリングをしている人はいないか…など日々考えます。近隣の方にとっては、生活の場であることを忘れずに、出会う機会があれば、「おはようございます」「こ



んにちは」と挨拶をかわせる関係を大切にし、保育園で働く私たち職員も、また利用する保護者も地域住人の一人として心地よく過ごしていける場所、子どもたちが安心して過ごすことができる地域になるよう心掛けていきましょう。

春 つばめの到来



春の訪れとともに、つばめも到来。今年も木造園舎の軒下はちょうど巣作りに適しているようで、数組のつばめのつがいがせっせと巣作りを始めようとしています。けれど、つばめの巣はダニの温床。子どもが集団生活する場にはよくないので、その度に職員はその巣を落としています。せっせと落とし続け、もう諦めてくれるだろうと思いきや自然の摂理はそう簡単には曲げられず、毎年やりとりは続きます。今のところ、つばめがよくくる場所に、ネットをはってみたり、アルミホイルをはってみたり、鳥の鳴きまねをしてみたり…。職員の悪戦苦闘の日々が続きます。

つばめと共存できれば一番素敵なことだけれど、つばめの巣がダニの温床であることがわかっているのにそのままにはしておけません。せめてつばめが卵を産みおとす前に、巣落としをすることが、つばめへの優しさかと思っているので、職員が巣落としをしている姿を見ても驚かないでください。そして何かいい対処法を知っている人がいれば、ぜひ教えて下さい。